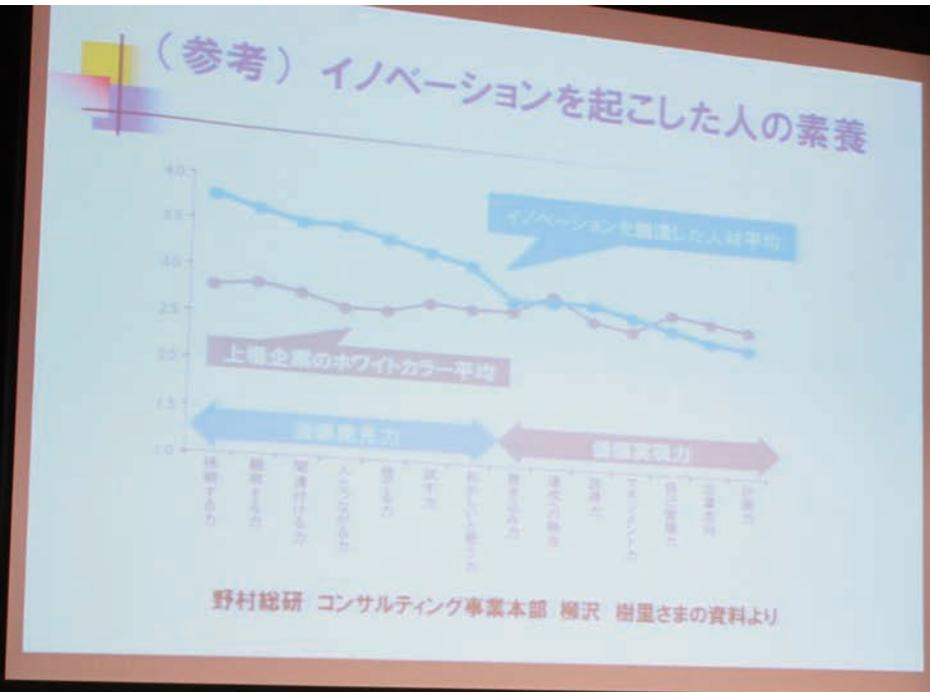


GCL NEWSLETTER 第3号 (2013.12)



世界を変え、未来を創る。

プログラムコーディネーターからのメッセージ

日本学術会議公開シンポジウム

起業体験談「Leopard」連載第2回

GCL ランチタイム第4回

授業紹介「The 官僚」



世界を変え、未来を創る。

國吉康夫教授（プログラムコーディネーター）インタビュー

ソーシャルICTグローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム（GCL）設立の背景には、日本の危機的な状況があります。なぜ日本の電機メーカーはiPhoneを作れなかったのか、なぜ原発事故で先陣を切ったのは日本のロボットではなかったのか、なぜ日本の行政はITによって効率化されないのか——。それは、全体のプランニングができる人材を育ててこなかったから。今までの文系・理系といった区切り方ではなく、両方を深く理解し、包括的に課題に取り組むことができる人材を育てることがGCLの目的です。

このような人材を、どう教育すれば良いのでしょうか？ GCLでは、「ソーシャルICT」をコンセプトに掲げています。これには2つの軸があって、1つは、社会全体を情報でつながりあったシステムとして捉えること、もう1つは、経済・制度・政策といった、人々の行動を考える方法を理解することです。この2つをセットで考えなければ、全体のデザインはできません。これを踏まえ、社会の具体的な課題に取り組むプロジェクトもカリキュラムに取り入れています。チームでの作業で互いを補い、また実際に社会を動かしている人々との協働を通じて広い視野を得てもらいたいと考えています。

第1期生がコースに参加し、もうすぐ1年が経ちます。1年次は助走期間で、これからが本番。2年次からは、インターンシップなど実際に社会に出る活動をしていてもらいます。現時点でも、自主的に動いて活動を引っ張っていく学生達が出てきたことに手応えを感じています。GCLの計画当初から、トップダウンで人材育成をすることには限界があり、学生が主導でプログラムを作っていくのが理想だと考えていたからです。もちろん、GCLには多くのリソースがあり、学生が自分たちでプログラムを作っていくようになるまでの支援は惜しみません。

東大で、従来の専攻で普通にやっていたら普通に良い進路があるわけで、GCLのような何が起るかわからないものを敬遠するのは、当然の心理だと思います。特に理系の学生は、修士まで出て、企業に入って、研究開発部門で製品を作れば良い、というような考えをしている人が多いように思いますが、そのシナリオは今でも成り立つのでしょうか？ 国民から大きな投資を受け、また期待を掛けられている東大生に、「このぐらいでいい」という考え方はしてほしくないのです。グローバル化が進み大きく変動する時代において、これからどう生きるか、考えてほしいと思います。

（聞き手：金子和正、森友亮 撮影：須原宣史）



■日本学術会議公開シンポジウム

ICTに携わる新たな人材像について議論がなされた（撮影・須原宜史）

11/27（水）日本学術会議公開シンポジウム「ICTを生かした社会デザインと人材育成（実践編）」が開催されました。当日は、情報分野の博士課程教育リーディングプログラムとして24年度に採択された東京大学、京都大学、大阪大学の3つのプログラムの報告会が行われ、その後には各プログラム受講学生、企業の方、そして文部科学省の方を交えたパネル討論が行われました。

GCLからはプログラムコーディネーターの國吉康夫教授と学生代表の小林尚生さん（情報理工学系研究科M1）が発表をされました。学生代表の小林さんの話を報告します。

◆コースが始まって半年を振り返って
まずGCLには面白い人が集まっていると感じます。学部時代は比較的、安定したキャリアを考える学生が多かったのですが、GCLに集まる学生にはリスクをとれるようなベンチャー気質があります。新たなことをどんどんしていきたいというメンバーが多く、刺激的な生活を行っています。

また大学生活面でも、学生が主体になって、新しい取り組みをいろいろさせて頂いています。GCLの学生が集まる共有スペースを提案したら、場所と予算を確保するので大学に提案してくださいとだけお願いしました。リスクをとりながら、大学にバックアップをして頂いていると感じます。

◆プログラムに対する要望
GCL自体は産官学の連携を掲げており、授業では企業や政府の方々から面白い話を伺っていますが、座学が多い印象があります。学生がもっと主体的に取り組む機会があるといいと思います。

コース自体が始まったばかりのプログラムなので、どんどん改善して行きたいと思います。その際、学生は意欲的な人が多いので、授業・プログラムに関する提案の場が欲しいです。

◆今後について
東京大学という一つのベンチャー企業が始まった。と感じていて、成功するかどうかはわからないけど、とりあえず走り出してイノベーションを起こしていく、スタートアップのような感覚があります。

これからも、一期生としてGCLを盛り上げていきたいです。

コース生を代表し、パネル討論に臨む小林さん（撮影・須原宜史）



■起業体験談 Leopard（岩尾俊兵）・第2回

◆経営学は社会に貢献する武器

一般に「専攻は経営学です」というと反応は二極化する傾向にある。「いいなあ役に立つ研究で……。じゃあ将来はお金持ちだ！」という反応（経営学実学派）と、「経営学って結局企業の経営じゃ何にも使われてないんでしょ。真理の追究でもないし何のためにあるの？」という反応（経営学虚学派）である。統計を取ったことはないが、これまでの経験から、経営学の初学者は経営学実学派だが、経営学分野の本を読めば読むほど経営学虚学派に転じるようである。しかし経営学を商学、会計学、経済学、経営工学、商法、税務、労務管理といった関連分野まで含めて学ぶようになると、経営学は社会に貢献する武器としてこれからどんどん伸びていくだろうという気になる。そこで第二回起業体験記からは経営学の理論を（教授に見られたら恥ずかしいくらい）大雑把に要約しながら、起業の際にいかに関わったか書いていこうと思う。

◆経営組織論——組織とは

とりあえず会社を設立したが、会社はまだ紙切れにすぎなかった。法務局に行けば存在を証明してもらえるだけの資本金30万円の会社、会社は電子的記録の中にしか存在していなかったのである。

もちろん構想はあった。漠然とではあるが、一言でいえば、ネット上に産業集積地を作るという構想だ。しかしこの時点で会社はシステムとして何かを生み出すものにはなっていなかった。経営学の一分野である経営組織論では、組織とは二人以上の人間が協力して何らかの成果や目的を達するものであるという。組織

に必要なのは人がコミュニケーションを行い協力して何かを成し遂げる場であり、組織に参加する魅力を提供することでそのような場が生まれる。しかしどうやって？ お金はそんなにない。銀行口座もない。

「GCLならリーダーシップで人を動かさなきゃ」と怒られそうだが、人はなかなか動かないのである。それは人が悪いのではない。人間は基本的に善人ばかりではあるけども、人間は弱い。お金にならない夢だけでは人はやがて食うための仕事でせいっぱいになる……。

◆「会社」から「組織」へ

まずは友人を集めて語り合った。Leopardなら何が出来るかについて。そしてメンバーは16人に膨れ上がった。しかし彼らの時間をすべてLeopardに使ってと要求することは私にはできなかった。そこで、Leopardに理屈抜きで参加する熱い男・成田君、株取引で比較的経済的には余裕がある加藤くん、そして私の三人は無休で働く代わりに株を持つことにした。Leopardが大きくなれば株が資産になる。頑張りが必要になるのである。

さらに資本金は100万円に増やし、アルバイトや外注にはお金を使い、さらに16人いたもとのメンバーはアドバイザーとして助言をもらう代わりに時間的な拘束を0にした。

こうしてLeopardは「会社」から「組織」へと一歩を踏み出していったのである……。

（本文執筆・岩尾俊兵さん（経済学研究科M1、Leopard代表取締役パートナー））



第4回GCLランチタイムの様子(撮影:後藤昂彦)

■ GCL ランチタイム

GCLの担当教員とコース所属学生の交流促進を目的とした昼食会「GCL ランチタイム」。今回は11/19(火)に行われた第4回の模様をお伝えします。

●第4回 萩谷 昌己 教授 (情報理工学系研究科 コンピュータ科学専攻/同研究科ソーシャルICT研究センター・副センター長)

11/19(火) 12:10-12:55

第4回の今回は、萩谷昌己教授にお越しいただき、コース生の石川寛朗さん、近藤大嗣さん、山元浩平さんとの昼食会を行いました。会では、主にGCLコースの授業内容について活発に意見が交わされました。

<参加した学生の皆さんの感想>

・石川寛朗さん(学際情報学府 M1)

先日はありがとうございました。ランチタイムを通し、他の学生のGCLに対するモチベーションや、授業への取り組み方などを知ることができ、とても刺激になりました。また、異なる分野の学生間や先生方との交流という意味でも有意義であったと思います。GCLという一つの集団として、今後お互いに成長していくためには、こうした交流の機会は必ず必要であると実感しました。

・近藤大嗣さん(学際情報学府 M1)

萩谷先生とGCLプログラムで行われている授業について様々なお話をする機会を頂き、我々の授業に対する感想や思いをダイレクトに伝えることができました。我々自身がこのように直接意見を言える機会はな

かなかなく、来年の第二期GCLコース生のためにも重要なランチタイムでした。

今後も我々が直接意見を言える機会があれば積極的に参加し、学生と教員が協力してGCLプログラムを良くすることができればと思いました。

・山元浩平さん(情報理工学系研究科 M1)

予てより萩谷先生のエッセイ(萩谷研 Web Site 参照)のファンだったので、今回のランチに申し込みました。ランチでは、GCL講義のカリキュラムに関するお話がメインでしたが、萩谷先生が非常に真剣に講義のカリキュラムについて検討している姿が印象的でした。先生方の多大な労力に感謝するとともに、その期待に応えられるよう、努力して参りたいと思います。
皆さん萩谷先生のエッセイ Check it out!

萩谷先生、貴重なお時間をどうもありがとうございました！ 来月号では中山英樹先生とのランチタイムの模様をお送りします。

それでは、次回もお楽しみに！

※ GCL ランチタイムへのご意見・ご要望などは、GCL 広報企画 pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp までお寄せください。

■ 授業紹介

● GCL 講義Ⅶ「The 官僚」

科目名：GCL 講義Ⅶ「The 官僚」(2単位)

担当教員：総務省 鈴木茂樹、経済産業省 松永明、及び、各省庁を代表するリーダーによるオムニバス講義

テーマ：日本を、社会・経済をデザインする

講義室：工学部2号館 4F 246 教室

開講日：金曜 6限 18:30-20:00

TA 学生による授業紹介(執筆・山元浩平さん(情報理工学系研究科 M1))

皆さんは、城山三郎著の『官僚たちの夏』をご存知でしょうか。この小説では、敗戦から立ち直り、日本の高度経済成長を推し進めるために奔走した官僚たちの熱い日々が、生き生きと描かれている。それから約半世紀が経った現在、私達の目に、官僚はどのように写っているだろうか。いつしか世間では、「脱官僚」「政治主導」「天下り」と、官僚にまつわるネガティブなイメージばかり取り沙汰されるようになってしまった。

しかし一方で、私たちは、官僚の何を知っているのだろうか。

この講義では、そんな世間一般からはなかなか見えにくい、官僚の世界を垣間見ることができる。

「日本をデザインする」という、あまりにも壮大なテーマを掲げる本講義ではあるが、実際に官僚の方々がされているのは、そういうことなのだ。日本をデザインするために人生を捧げてきた官僚の皆さんのお話は、どれも含蓄のあるものばかりだ。

課題先進国と言われる我が国、日本。しかし、その課題は、課題であると同時にチャンスであるとも言える。そして、それをチャンスに変えることができるかは、これから生きる私達にかかっているのだ。

これからの日本を背負っていく学生にとって、この講義は多くのヒント提示してくれるだろう。講義中に散りばめられたそれらのヒントを自分なりに咀嚼し、含意を読み取ることができれば、今後の自分自身、そして日本に、その知見を活かすことができるはずだ。

■ GCL コース生の声

◆ 『GCL 講義Ⅶ The 官僚』懇親会のお知らせ

皆さん、こんにちは！『GCL 講義Ⅶ The 官僚』のTAをしております、情報理工学系研究科の山元浩平です。この度、12/6日(金)(直前ですみません!!)に「The 官僚懇親会」を開催することになりました。懇親会では、官僚の先生方をはじめ、社会人の方々等、普段なかなか接する機会のない方々と交流できる非常に貴重な機会です。もちろん講義を受講していない方の参加も大歓迎ですので、皆さん奮ってご参加下さい！

以下概要です。

日時：12/6(金) 20:00-22:00

場所：工学部2号館 3F 電気系会議室 1A1B

予算：学生1000円(人数により500円程度になる可能性あり)

内容：官僚の先生方や社会人の方々と学生の懇親会

参加方法：kanryo@gcl.i.u-tokyo.ac.jp にご連絡下さい！

以上、皆様のご参加お待ちしております



■ イベント告知

◆ GCL コース生プレゼンコンペ

日時：2013年12月8日(日) 10:50-18:05

場所：工学部2号館1F213大講義室

時間	氏名
10:50-11:00	國吉 康夫
プログラム コーディネーターの開会のあいさつ	
11:00-11:15	伊藤 萌子 (ビデオ)
11:15-11:30	榊原 理恵
11:30-11:45	岩尾 俊兵
11:45-12:00	赤崎 拓未
12:00-12:15	木戸 肩吾
昼休み (45分)	
13:00-13:15	小林 尚生
13:15-13:30	HUYNH NGOC AN
13:30-13:45	田中 義丸
13:45-14:00	山元 浩平
休憩 (10分)	
14:10-14:25	糸永 順子
14:25-14:40	施井 泰平
14:40-14:55	石川 寛朗
14:55-15:10	風間 正弘
休憩 (15分)	
15:25-15:40	笹渕 一宏
15:40-15:55	葛 杭麗
15:55-16:10	近藤 大嗣
16:10-16:25	茂木 裕
休憩 (10分)	
16:35-16:50	江本 駿
16:50-17:05	松原 由季
17:05-17:20	澁田 朋未
休憩 (10分)	
17:30-17:45	浦野 由平
17:45-18:00	山本 瑛美
18:00-18:05	國吉 康夫

プログラム コーディネーターの閉会のあいさつ

◆ コース生編入募集

GCLでは、博士後期課程からの編入も受け入れています。下記に案内を掲載しますが、詳細や最新の情報はGCLプログラムホームページ (<http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp/>) で確認してください。

● 概要

「ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム (GCL) は、修士課程から博士後期課程までの5年一貫教育を基本とするが、3年次(博士1年)からの編入も認めている。

3年次からプログラムに参加する者には以下のことが求められる。社会イノベーションプロジェクトの具体的企画を有し、これに早期に取り掛かること。また、本GCLプログラムのグローバルデザインワークショップに主催者として携わり、後輩をリードすること。そのために必要な知識と経験とビジョンを有していることが前提となる。

● 提出期間と提出先

平成25年12月24日(火) 午前10時～平成26年1月7日(火) 午後5時に、GCLプログラム事務局(住所は本要項末尾に記載)に提出する。ただし、平成25年12月28日(土)～平成26年1月5日(日)までは、事務局が閉室するので注意すること。郵送の場合は平成26年1月3日消印有効。

● 面接

原則として平成26年1月15日(水) 午前10時～午後5時の間。特段の理由がある場合は平成26年1月22日(水)の面接を認めることがある。

● 詳しくは下記ページ参照：「ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム (GCL)」コース生編入募集 (<http://www.gcl.i.u-tokyo.ac.jp/news/20140107hennyu/>)

● 問い合わせ先

GCLプログラム事務局

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1

(工学部8号館621号室)

電話:03-5841-8746 FAX:03-5841-8672

電子メール: gcl_admin@gcl.i.u-tokyo.ac.jp

編集・発行:

情報理工学系研究科・GCL 広報企画

(森友亮(情報理工M2)、後藤昂彦(情報理工M1)、金子和正(工B3)、須原宜史(工学系D2))

〒113-8656 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学工学部8号館621号室 GCL事務局

E-mail: pr_plan@gcl.i.u-tokyo.ac.jp